

平成27年度の  
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと  
当面の課題について

平成27年9月25日



一般社団法人 **Jミルク**  
Japan Dairy Association (J-milk)

# 1. 地域別生乳生産量の動向

## 【生乳生産量予測の前提】

・北海道及び都府県の予測値は、平成 27 年 7 月までの生乳生産量データに基づき、気温や乳牛頭数等を説明変数とした予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。なお、平成 27 年度の気温は、平年並で設定。

表 1 : 平成 27 年度の地域別生乳生産量 (見通し)

	全 国		北海道		都府県	
	前年比	前年比	前年比	前年比		
4 月	625	99.7%	318	100.9%	307	98.5%
5 月	649	99.8%	335	100.5%	314	99.1%
6 月	625	100.9%	329	101.4%	296	100.5%
7 月	629	101.7%	335	101.8%	294	101.6%
8 月	609	101.5%	327	102.1%	282	100.7%
9 月	588	100.8%	313	101.0%	275	100.5%
10 月	603	100.8%	318	101.4%	285	100.1%
11 月	583	99.9%	306	100.3%	277	99.4%
12 月	614	100.1%	322	100.4%	292	99.7%
1 月	625	100.2%	326	100.4%	298	99.9%
2 月	595	103.9%	309	104.4%	286	103.4%
3 月	644	100.3%	332	100.8%	312	99.9%
第 1 四半期	1,899	100.1%	982	100.9%	917	99.3%
第 2 四半期	1,826	101.3%	974	101.7%	851	101.0%
第 3 四半期	1,799	100.2%	945	100.7%	854	99.7%
第 4 四半期	1,864	101.4%	967	101.8%	897	101.0%
上期	3,724	100.7%	1,956	101.3%	1,768	100.1%
下期	3,664	100.8%	1,913	101.2%	1,751	100.4%
年度計	7,388	100.8%	3,869	101.3%	3,519	100.2%
閏年修正後		100.5%		101.0%		100.0%

※表は、白枠部分が実績、着色部分が予測 (平成 27 年 8 月以降)。以下、全て同様。

## 【生乳生産量の見通し】

27 年度の生乳生産量は、例年よりも夏季の気温が低かったことに加え、様々な増産への取組みや暑熱対策等が功を奏している模様で、北海道では 26 年度を上回り 3,869 千トﾝ・前年比 101.3%、都府県ではほぼ前年並みの 3,519 千トﾝ・同 100.2% の見通し。その結果、全国の生乳生産量は、26 年度をやや上回り 7,388 千トﾝ・同 100.8% と見込まれる。

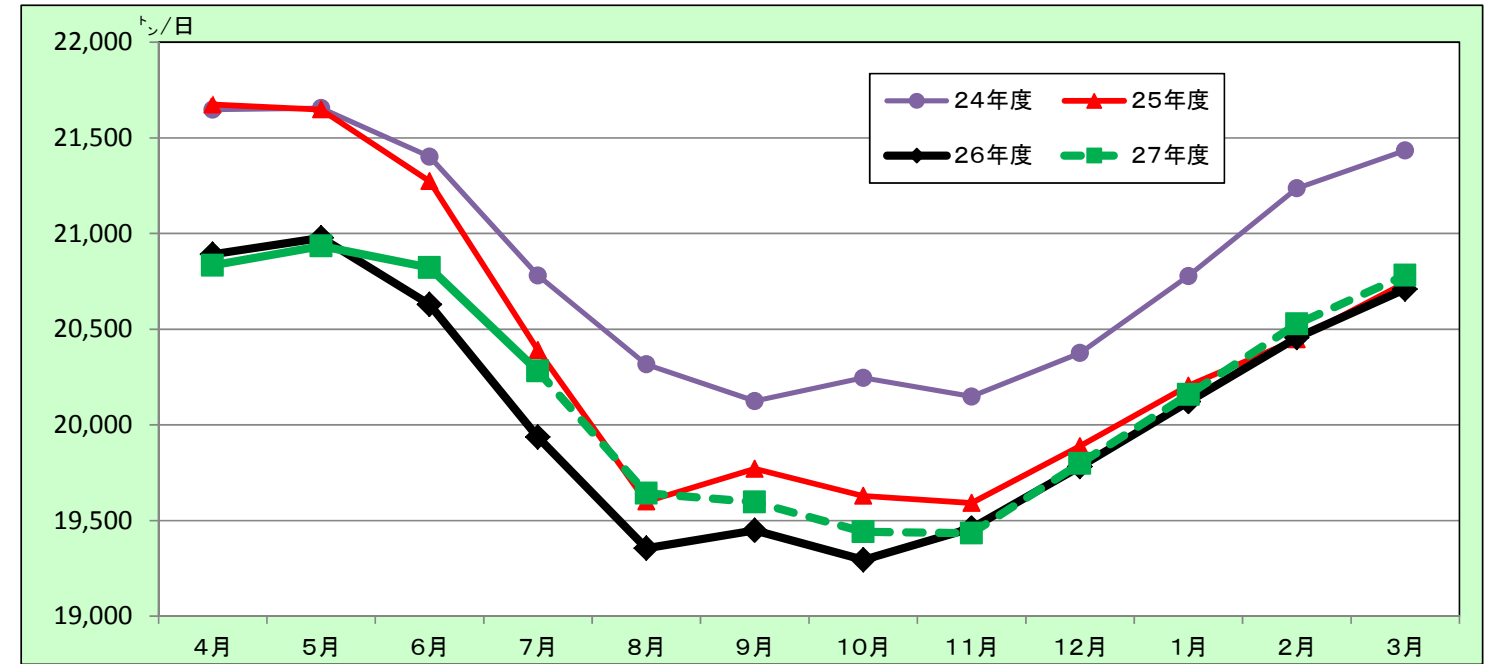
なお、前回 7 月公表時の 27 年度通期予測との差異 (閏年修正前) は、以下の通り。

「全国」: +62 千トﾝ (前年比+0.9 ポイント)

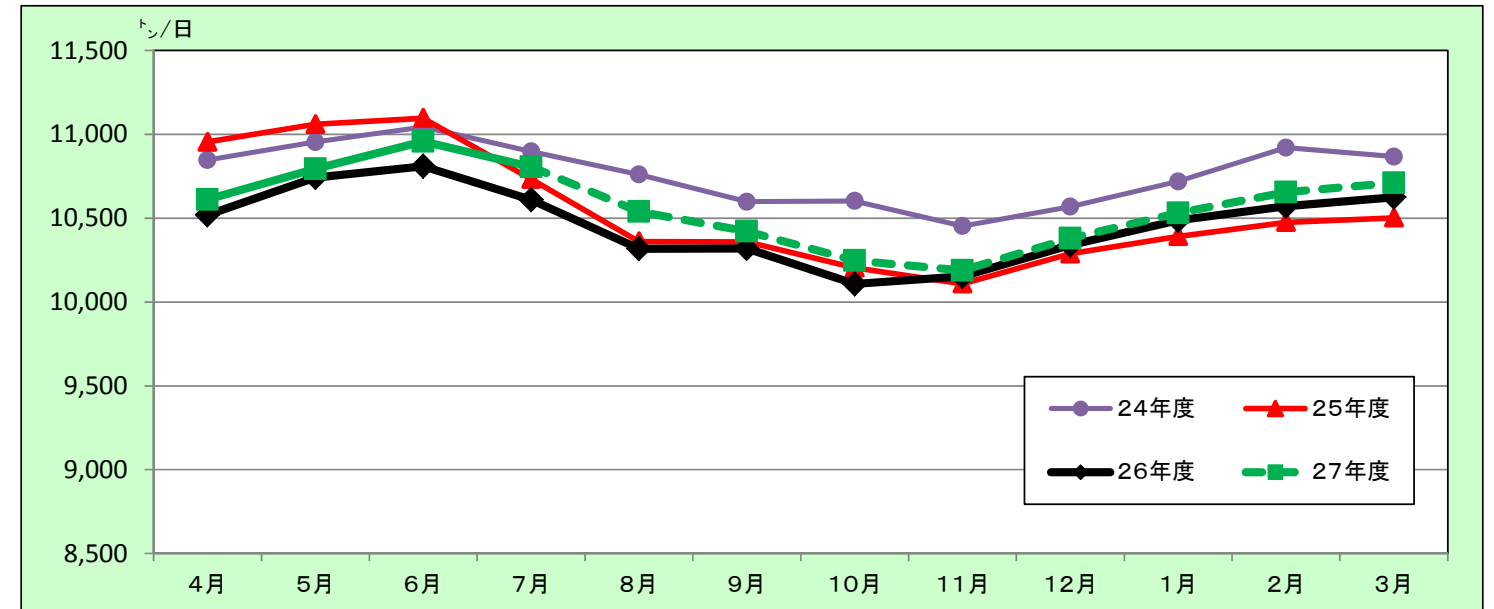
「北海道」: +8 千トﾝ (同+0.2 ポイント)

「都府県」: +54 千トﾝ (同+1.5 ポイント)

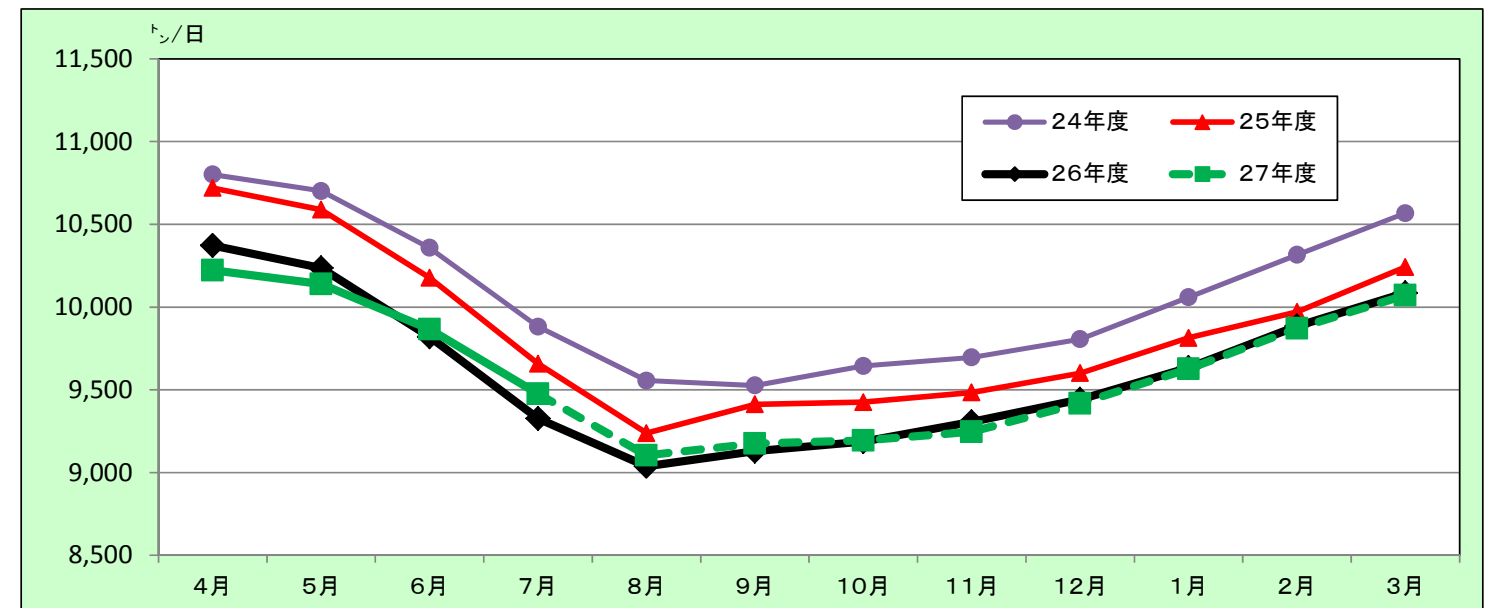
グラフ 1-1 : 全国の生産量 (日均量)



グラフ 1-2 : 北海道の生産量 (日均量)



グラフ 1-3 : 都府県の生産量 (日均量)



## 2. 牛乳等生産量の動向

### 【牛乳等生産量予測の前提】

・各々の予測値は、平成 27 年 7 月までの生産量データに基づき、気温や平日日数等を説明変数とした予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。なお、平成 27 年度の気温は、平年並で設定。

表 2：平成 27 年度の牛乳等生産量（見通し）

	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4 月	389	100.0%	245	101.0%	8	81.7%	28	99.8%	107	99.3%	89	101.8%
5 月	418	100.1%	261	100.2%	8	80.8%	31	103.3%	118	100.9%	92	102.3%
6 月	419	100.2%	265	100.9%	8	85.2%	30	101.0%	116	99.5%	94	107.7%
7 月	418	99.3%	255	100.7%	8	81.8%	32	100.3%	123	97.4%	93	106.5%
8 月	403	101.0%	236	100.6%	8	82.8%	32	102.4%	126	103.1%	87	106.5%
9 月	424	99.8%	264	99.7%	8	82.8%	31	101.9%	122	100.8%	87	103.0%
10 月	422	98.7%	265	99.0%	8	77.9%	30	100.8%	119	99.3%	88	102.5%
11 月	386	98.7%	249	99.0%	7	72.1%	27	102.2%	102	99.5%	80	105.0%
12 月	367	98.3%	236	98.5%	7	67.2%	27	101.4%	97	100.5%	77	102.0%
1 月	366	97.6%	236	97.8%	6	67.9%	27	100.9%	97	99.1%	81	97.1%
2 月	363	101.8%	236	102.1%	6	72.7%	26	106.2%	94	102.7%	82	106.2%
3 月	376	98.0%	238	97.7%	7	77.3%	28	103.0%	103	99.5%	90	101.0%
第 1 四半期	1,226	100.1%	772	100.7%	25	82.5%	89	101.4%	341	99.9%	275	103.9%
第 2 四半期	1,245	100.0%	755	100.3%	24	82.5%	95	101.5%	371	100.4%	267	105.3%
第 3 四半期	1,175	98.6%	750	98.8%	22	72.2%	84	101.4%	318	99.7%	245	103.2%
第 4 四半期	1,106	99.1%	711	99.1%	20	72.6%	81	103.3%	294	100.4%	253	101.3%
上期	2,471	100.0%	1,527	100.5%	49	82.5%	184	101.4%	712	100.2%	542	104.6%
下期	2,281	98.8%	1,461	99.0%	42	72.4%	166	102.3%	612	100.0%	498	102.2%
年度計	4,752	99.5%	2,987	99.8%	91	77.5%	349	101.9%	1,324	100.1%	1,040	103.5%
閏年修正後		99.2%		99.5%		77.3%		101.6%		99.9%		103.2%

### 【牛乳等生産量の見通し】

27 年度の牛乳等生産量は、4 月からの価格値上げにより、消費の減少を招く可能性が危惧されていたが、実際の需要は比較的堅調に推移しており、「牛乳類」は 26 年度をやや下回る程度の 4,752 千 K1・前年比 99.5%の見通し。

「はっ酵乳」は 26 年度を上回り 1,040 千 K1・同 103.5%と見込まれる。

なお、前回 7 月公表時の 27 年度通期予測との差異（閏年修正前）は、以下の通り。

「牛乳類」：▲24 千 K1（前年比▲0.5 ポイント）

「牛乳」：▲3 千 K1（同▲0.1 ポイント）

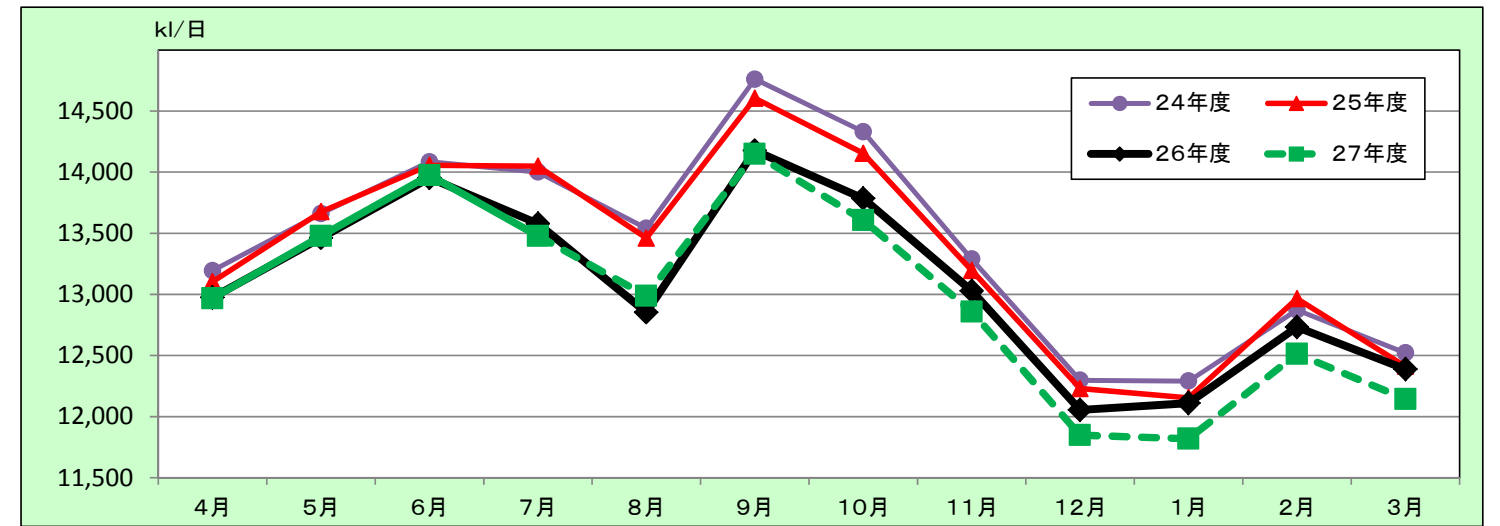
「加工乳」：▲4 千 K1（同▲2.9 ポイント）

「成分調整牛乳」：▲6 千 K1（同▲1.5 ポイント）

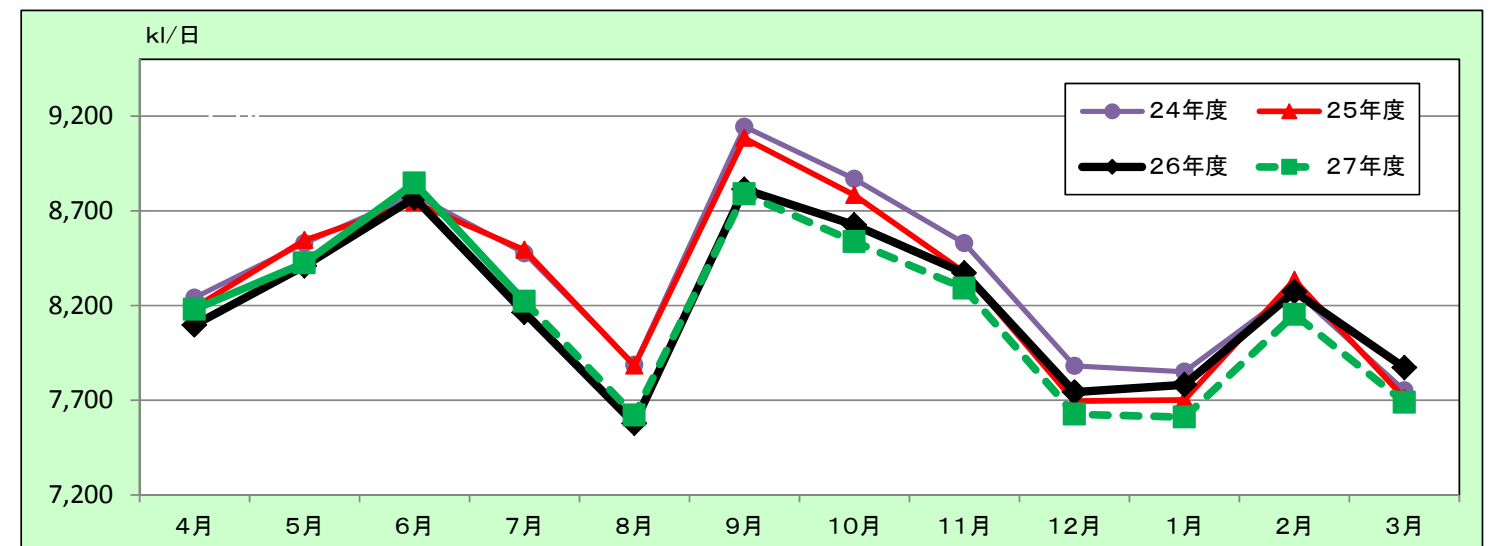
「乳飲料」：▲12 千 K1（同▲0.9 ポイント）

「はっ酵乳」：+18 千 K1（同+1.8 ポイント）

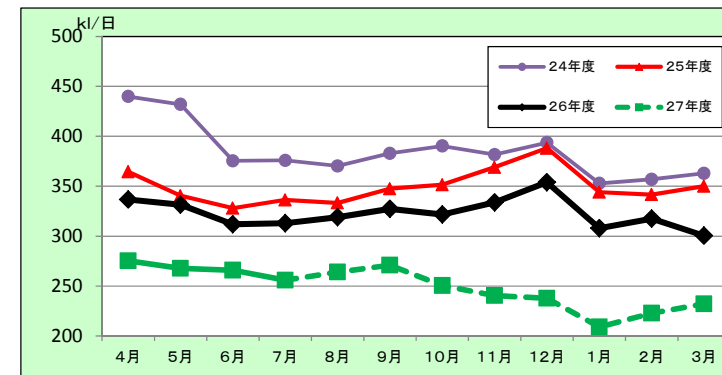
グラフ 2-1：牛乳類の生産量（日均量）



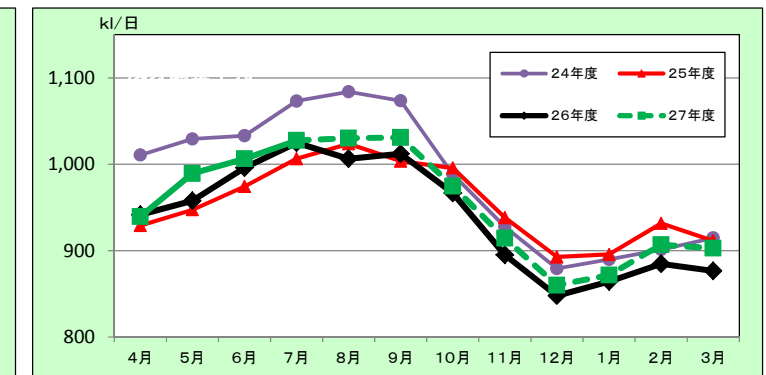
グラフ 2-2：牛乳の生産量（日均量）



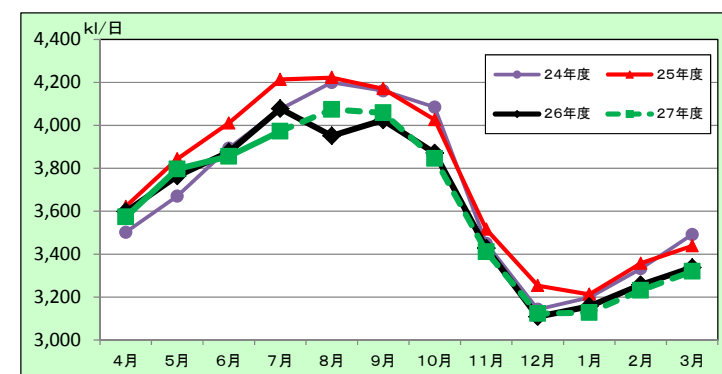
グラフ 2-3：加工乳の生産量（日均量）



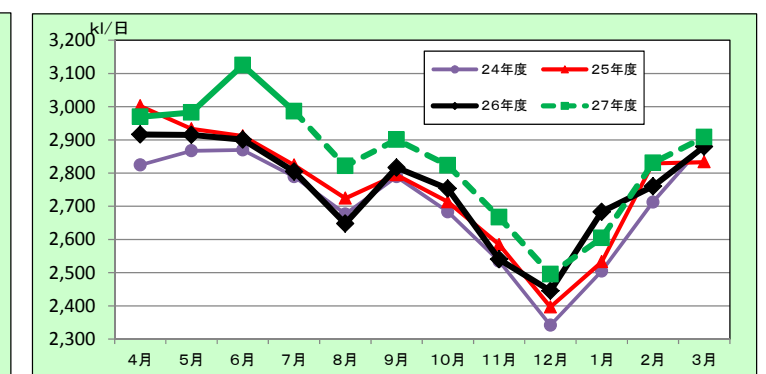
グラフ 2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



### 3. 用途別処理量の動向

#### 【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用係数を乗じ算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3：平成27年度の生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	625	99.7%	5	90.8%	620	99.8%	322	101.1%	298	98.4%
5月	649	99.8%	5	93.5%	644	99.8%	347	101.5%	297	98.0%
6月	625	100.9%	5	91.8%	620	101.0%	349	101.1%	271	100.9%
7月	629	101.7%	5	96.6%	624	101.8%	338	100.3%	286	103.6%
8月	609	101.5%	5	96.7%	604	101.5%	320	101.1%	284	102.0%
9月	588	100.8%	5	95.5%	583	100.8%	342	100.0%	241	101.9%
10月	603	100.8%	5	95.6%	598	100.8%	343	99.2%	255	103.0%
11月	583	99.9%	5	95.2%	578	99.9%	323	99.4%	256	100.5%
12月	614	100.1%	5	95.2%	609	100.1%	302	98.8%	307	101.4%
1月	625	100.2%	5	95.2%	620	100.2%	308	97.9%	312	102.6%
2月	595	103.9%	5	99.2%	590	104.0%	306	102.5%	284	105.6%
3月	644	100.3%	5	95.5%	640	100.4%	313	98.3%	326	102.5%
第1四半期	1,899	100.1%	14	92.0%	1,885	100.2%	1,019	101.2%	866	99.0%
第2四半期	1,826	101.3%	14	96.3%	1,811	101.4%	1,001	100.5%	811	102.5%
第3四半期	1,799	100.2%	14	95.3%	1,785	100.3%	968	99.2%	817	101.6%
第4四半期	1,864	101.4%	14	96.7%	1,850	101.4%	927	99.5%	923	103.5%
上期	3,724	100.7%	28	94.1%	3,696	100.8%	2,020	100.9%	1,677	100.7%
下期	3,664	100.8%	28	96.0%	3,635	100.9%	1,895	99.3%	1,740	102.6%
年度計	7,388	100.8%	57	95.0%	7,331	100.8%	3,915	100.1%	3,417	101.6%
閏年修正後		100.5%		94.8%		100.5%		99.8%		101.3%

#### 【用途別処理量の見通し】

27年度の用途別処理量は、「生乳供給量」が26年度を上回り7,331千トン・前年比100.8%と見込まれる中で、「牛乳等向処理量」がほぼ前年並みの3,915千トン・同100.1%と見込まれることから、その結果、「乳製品向処理量」は26年度を上回り3,417千トン・同101.6%と見込まれる。

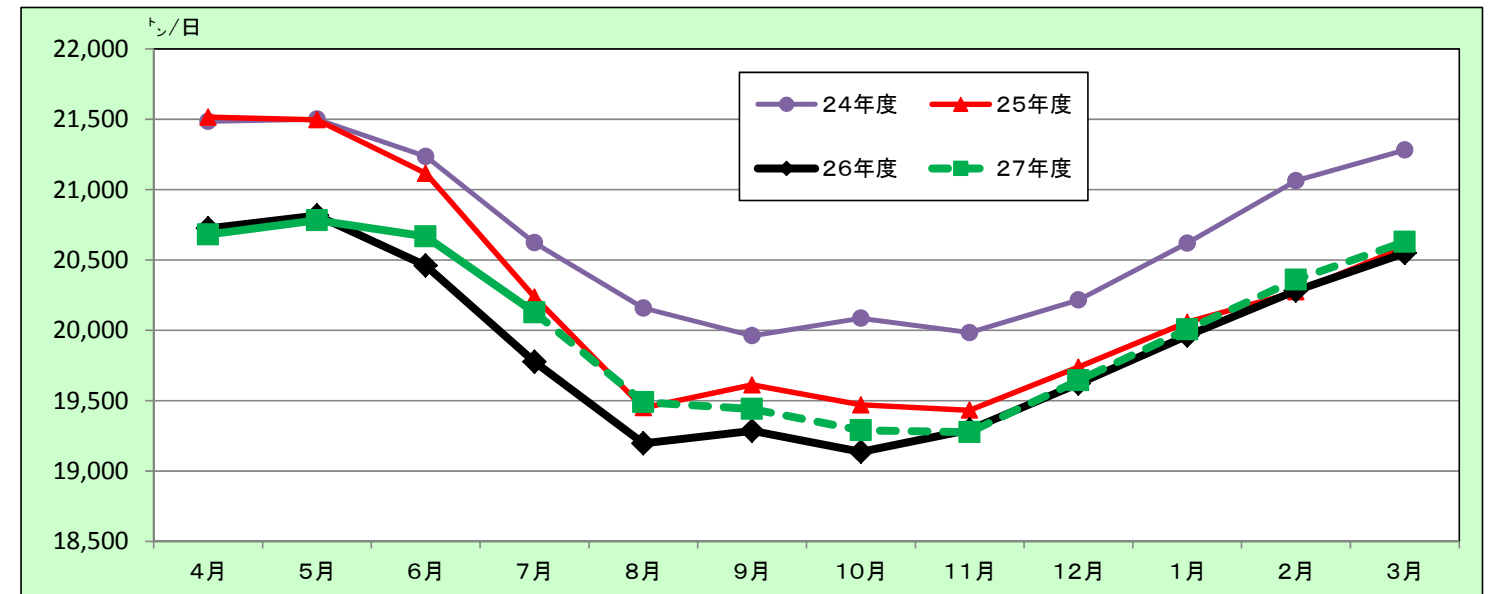
なお、前回7月公表時の27年度通期予測との差異（閏年修正前）は、以下の通り。

「生乳供給量」：+60千トン（前年比+0.8ポイント）

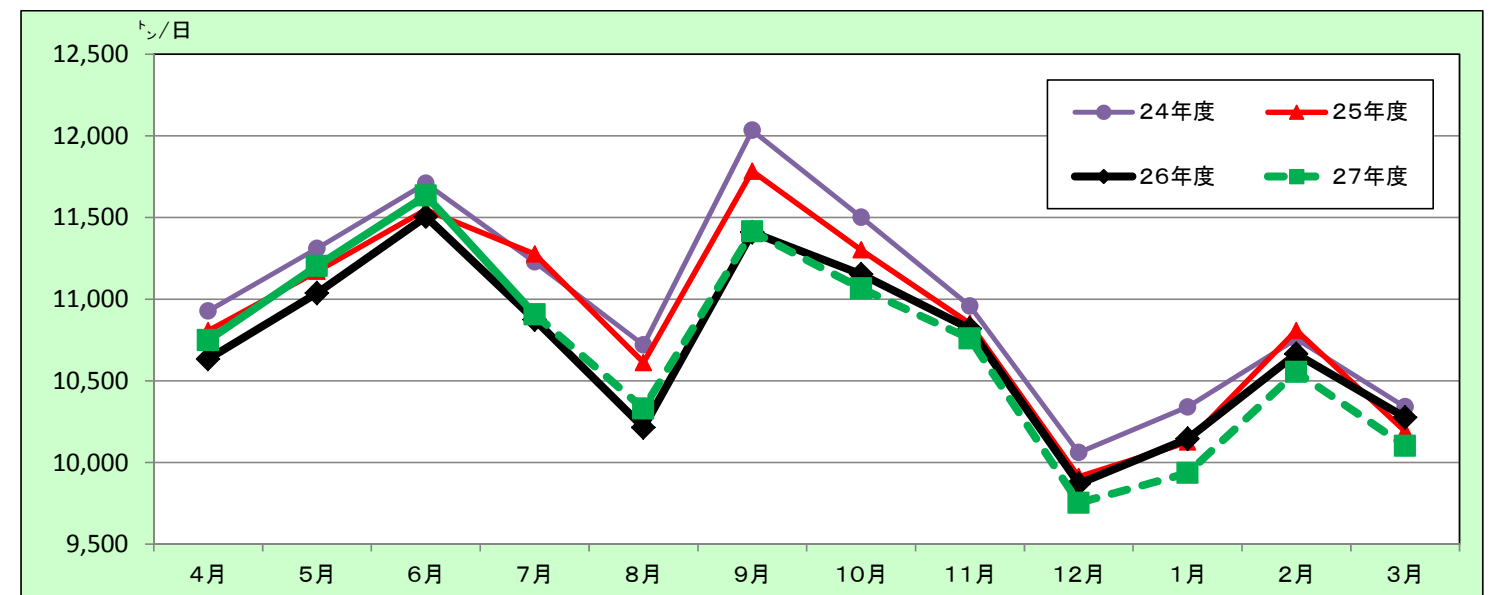
「牛乳等向」：▲9千トン（同▲0.2ポイント）

「乳製品向」：+70千トン（同+2.0ポイント）

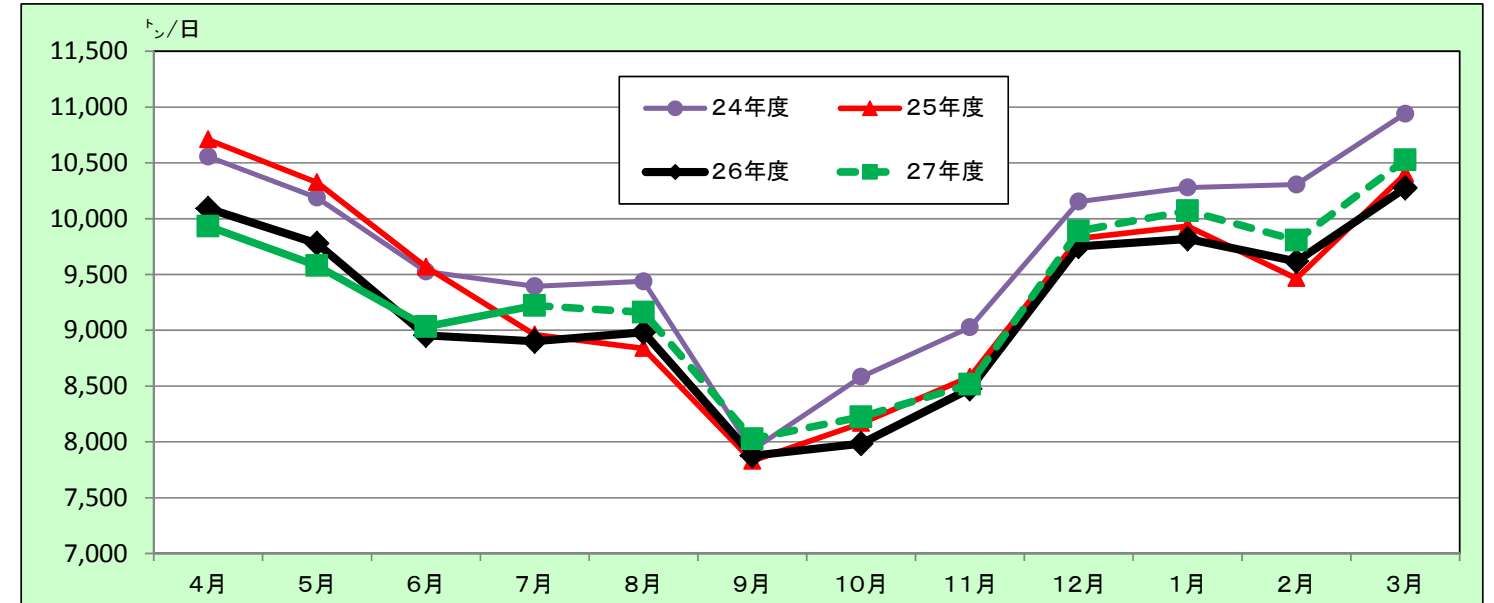
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



#### 4. 都府県の生乳需給の動向

##### 【都府県生乳需給予測の前提】

- ・「移入量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- ・「特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量」は、「過不足(A-B-C)」+「移入量」-「移出量」で算出し、過去5年間の最低数量や直近の需給状況等を加味して算出。

表4：平成27年度の都府県の需給（見通し）

	生乳供給量		牛乳等向処理量		その他乳製品向処理量		過不足 A-B-C	移入量 (道外移出量)		移出量	特定乳製品向処理量	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比		前年比	
	(千トン)	(%)	(千トン)	(%)	(千トン)	(%)		(千トン)	(%)		(千トン)	(%)
4月	304	98.5%	277	100.7%	13	99.4%	14	19	101.9%	0	32	84.5%
5月	312	99.0%	300	101.0%	13	91.0%	-1	23	107.4%	0	22	87.1%
6月	293	100.4%	302	100.7%	13	98.1%	-21	33	101.1%	0	12	103.4%
7月	291	101.5%	289	99.8%	14	101.2%	-12	28	83.8%	0	16	97.1%
8月	280	100.7%	273	100.9%	16	100.1%	-9	28	95.2%	0	19	90.3%
9月	273	100.5%	293	99.4%	13	100.0%	-33	39	90.4%	0	6	85.9%
10月	283	100.0%	294	98.8%	14	100.0%	-25	34	89.6%	0	9	96.9%
11月	275	99.3%	276	99.0%	14	100.0%	-15	27	96.5%	0	12	100.0%
12月	289	99.7%	258	98.3%	16	100.0%	16	22	99.2%	0	37	110.2%
1月	296	99.9%	264	97.6%	14	100.0%	18	20	98.1%	0	37	118.3%
2月	284	103.4%	263	101.9%	12	103.6%	9	19	101.7%	0	28	117.7%
3月	310	99.8%	266	98.0%	14	100.0%	29	17	97.5%	0	46	111.8%
第1四半期	909	99.3%	878	100.8%	39	96.1%	-7	75	103.2%	1	67	88.3%
第2四半期	844	100.9%	854	100.0%	43	100.4%	-54	95	89.6%	0	42	92.1%
第3四半期	847	99.7%	828	98.7%	44	100.0%	-24	83	94.2%	0	59	105.7%
第4四半期	889	101.0%	793	99.1%	41	101.1%	56	56	99.1%	0	111	115.3%
上期	1,753	100.1%	1,732	100.4%	82	98.3%	-61	170	95.1%	1	109	89.7%
下期	1,736	100.3%	1,621	98.9%	85	100.5%	31	139	96.1%	0	170	111.8%
年度計	3,490	100.2%	3,353	99.7%	167	99.4%	-30	309	95.6%	1	279	102.0%

##### 【都府県の生乳需給の見通し】

都府県の生乳需給は、「生乳供給量」がほぼ前年並みと見込まれる中、「牛乳等向処理量」もほぼ前年並みの見通しである。その結果、北海道から都府県への「移入量(道外移出量)」は、通期では前年を下回る水準309千トン・前年比95.6%で推移するものと見込まれる。

#### 5. 特定乳製品需給の動向

##### 【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの出回り量は、平成27年7月までの消費量データに基づき、代替乳製品の動向等を説明変数とした予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・脱脂粉乳・バターの在庫月数は、前年度の一ヶ月平均出回り量をもとに算出。

表5：平成27年度の脱脂粉乳の需給（見通し）

	生産量		輸入 売渡し B	出回り量		過不足 A+B-C	期末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
	(千トン)	(%)		(千トン)	(%)		(ヶ月)	(%)	
第1四半期	33.1	105.8%	5.1	34.3	96.7%	3.9	50.4	4.4	128.8%
第2四半期	27.7	111.5%	5.0	37.1	101.9%	-4.4	46.0	4.0	137.0%
第3四半期	31.9	108.5%	0.2	34.1	104.6%	-2.0	44.0	3.8	128.2%
第4四半期	38.3	108.2%	5.0	32.8	101.1%	10.5	54.4	4.8	117.0%
上期	60.8	108.3%	10.1	71.5	99.4%	-0.5	46.0	4.0	137.0%
下期	70.2	108.4%	5.2	67.0	102.8%	8.4	54.4	4.8	117.0%
年度計	131.0	108.3%	15.3	138.4	101.0%	7.9	54.4	4.8	117.0%

グラフ5：脱脂粉乳の出回り量及び在庫量（四半期毎）

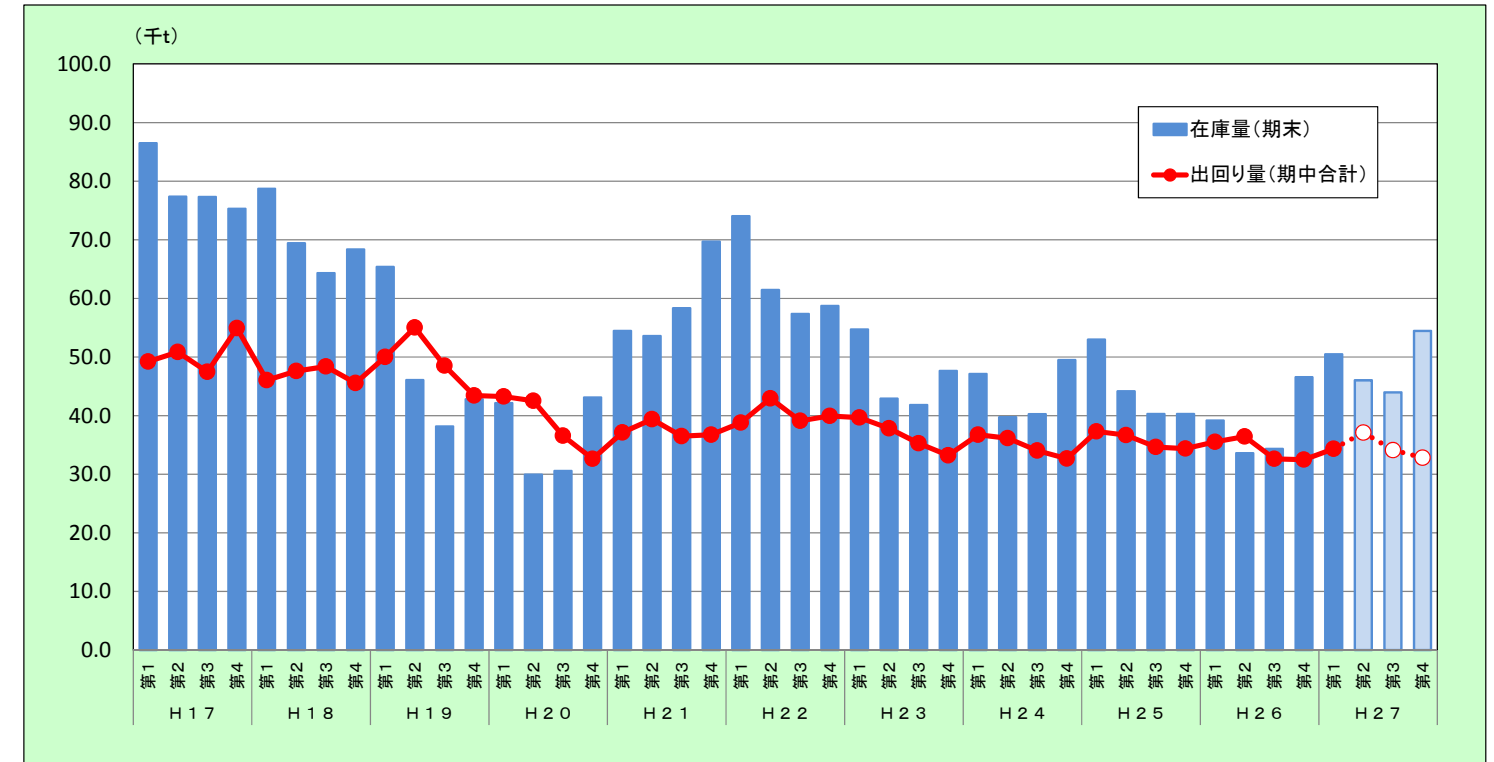
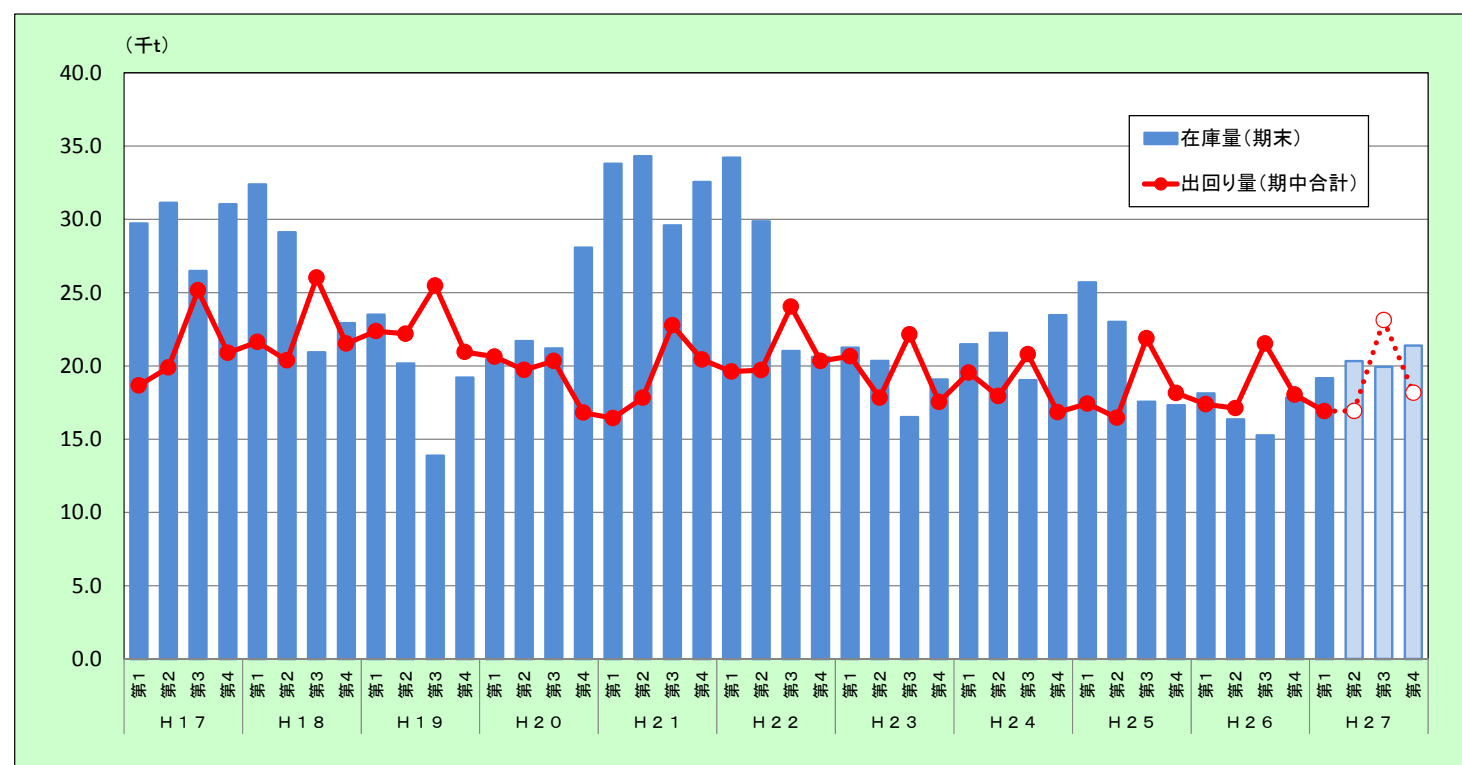


表6：平成27年度のバター需給（見通し）

(千トン)

	生産量		輸入 売渡し B	出回り量		過不足 A+B-C	期末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
第1四半期	17.2	101.4%	1.0	16.9	97.3%	1.3	19.2	3.1	105.7%
第2四半期	14.3	110.6%	3.8	16.9	99.0%	1.2	20.3	3.3	124.3%
第3四半期	14.8	108.6%	7.9	23.1	107.5%	-0.4	19.9	3.2	130.6%
第4四半期	19.6	108.3%		18.2	100.8%	1.5	21.4	3.5	119.9%
上期	31.5	105.4%	4.9	33.8	98.1%	2.5	20.3	3.3	124.3%
下期	34.5	108.4%	7.9	41.3	104.4%	1.1	21.4	3.5	119.9%
年度計	65.9	107.0%	12.8	75.2	101.5%	3.6	21.4	3.5	119.9%

グラフ6：バターの出回り量及び在庫量（四半期毎）



【特定乳製品（脱脂粉乳・バター）需給の見通し】

脱脂粉乳については、乳製品向処理量が増加する中で、27年度の生産量は前年度を上回り131.0千トンの前年比108.3%と見込まれる。輸入売渡しは、26年度分追加輸入残量並びに27年度分カレントアクセス輸入数量と追加輸入数量として15.3千トンが売り渡される見込みとなっており、その結果、27年度末在庫量は54.4千トン（前年度末比+7.9千トン）と増加する見込みである。

バターについても、乳製品向処理量が増加する中で、27年度末在庫量は前年度を上回り65.9千トン・同107.0%と見込まれる。輸入売渡しは、27年度分カレントアクセス輸入数量及び追加輸入数量として12.8千トンが売り渡される見込みとなっており、その結果、27年度末在庫量は21.4千トン（前年度末比+3.6千トン）と増加する見込みである。

なお、前回7月公表時の27年度通期予測との差異は、以下の通り。

脱脂粉乳「生産量」：+6.0千トン（前年比+4.9ポイント）、「27年度末在庫量」：+1.7千トン（同+3.9ポイント）

バター「生産量」：+2.6千トン（同+4.3ポイント）、「27年度末在庫量」：+2.2千トン（同+12.5ポイント）

6. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

(1) 生乳生産回復に向けた取組みの継続

27年度の生乳生産量は、全国で前年比100.8%と前年を上回る見込みとなっている。

このうち、北海道では、生産現場での各種増産努力等の効果や、今後2~4歳の頭数が前年を超えて推移する見込みであることから、生乳生産量は同101.3%と前年を上回ると見込まれる。

また、都府県では、梅雨明け後、一時的に猛暑日が連続し、乳用牛への暑熱ストレスが心配されたところであるが、お盆明け以降は、雨が多く気温が下がったことに加え、生産現場における暑熱対策等の実施や、増産努力の効果、さらに今後2~3歳の頭数が前年を超えて推移する見込みであることから、生乳生産量は同100.2%と前年を上回る見込みである。

一方、乳用牛頭数が減少基調であることに加え、乳用牛への黒毛和種交配率が引き続き高い水準となっていることから、後継牛確保や増産対応などについて、国や地方自治体、酪農乳業一体となった取組みを継続することが必要である。

(2) 乳製品安定供給への取組み

特定乳製品（脱脂粉乳・バター）については、生乳生産量が回復基調の中、牛乳等向生乳処理量がほぼ前年並みと見込まれるため、生産量は年度当初の予測よりも増加し、脱脂粉乳は前年比108.3%、バターも同107.0%と見込まれる。これに加え、27年度カレントアクセス輸入数量及び追加輸入数量として脱脂粉乳15.3千トン・バター12.8千トンが、今後、順次市場に売り渡されることから、脱脂粉乳・バターともに十分な供給量が確保され、在庫量は年度末に向けて適正水準に向かい、年度内の乳製品需給は安定すると考えられる。

なお、今後、特にバターなど乳製品の最需要期を迎えるにあたり、国と酪農乳業関係者は一体となって、ユーザー及び小売流通業界並びに一般消費者に対して、需給情報を正確に発信し理解醸成を図るとともに、乳製品需給の安定を図るため一層の取組みの強化が重要である。